



日本シミュレーション医療教育学会理事長就任にあたり

藤倉輝道

日本シミュレーション医療教育学会理事長
日本医科大学 医学教育センター



会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さてこの度、私は10月の理事会で3代目の理事長に選出されました。日本シミュレーション医療教育学会は、2013年に日本M&S医学教育研究会と医療教育スキルラボ研究会のふたつの研究会が対等合併して設立され、初代理事長には奈良信雄先生（日本医学教育評価機構常勤理事）が就任されました。鈴木利哉先生（大学改革支援・学位授与機構教授）が2016年から第2代理事長を務められ長きにわたり当学会の舵取りをされてきました。年1回学術大会を開催し、年1回査読ありの学術誌・日本シミュレーション医療教育学会雑誌を刊行することを堅持し今日に至ります。学会業務としては当然のことにも思いますが、当学会は規模も大きくはなく、機動性を発揮する以前にいわゆる、ヒト、モノ、カネの諸問題に苦慮し続けて参りました。理事の一人としてこの状況を間近に見ながら十分なお手伝いも出来ずに参りましたことを、この場を借り改めてお詫び申し上げるとともに、先代、先々代理事長のご苦勞に対し会員一同を代表し深謝致します。

2023年11月現在、会員登録者数は733名です。退会者もおられ、さらに会費未納で取り扱い保留の方も含めると、実会員数は400名程度と推察されます。先に触れました様に、ヒトとカネの関係で、当学会では会費納入はメールでのご依頼のみで督促も致しておりません。このため、メールを見落としし未納が生じてしまいます。そこで、まずは会員名簿の整理と会員の実態把握に着手することに致しました。学会より会費納入のお願い等、もし届きましたらご確認の程をお願い申し上げます。これらの業務を遅滞や漏れなく行うために、この度、理事ならびに評議員の皆様のご理解のもと事務業務を外部委託させて頂くこととしました。今年度中に、まずは学会員の活動状況をしっかり把握したいと考えます。

当学会員の職種別では、医師と看護師が最も多く、薬剤師、歯科医師、臨床工学士、模擬患者、理学療法士、救命救急士、医学生、放射線技師等多職種の方々も在籍されています。当学会は皆様にとって何かの折に「頼りになる」場にしていくことを私の理事長としての公約に掲げさせていただきました。業績発表はもとより、人事交流、研究推進、教育実践ノウハウのご相談やシミュレータなどモノに関する情報提供や仲介にも関わって参りたいと考えます。シミュレーション医療者教育を行っているわが国のシミュレーション3学会（日本看護シミュレーションラーニング学会、日本医学シミュレーション学会、日本医療教授システム学会）とも連携し、また日本医学教育学会とも協働しながら進めて参ります。この様な取り組みにご賛同頂けますようであれば、是非お仲間にもお声がけいただき、新規会員の参画にもお力添え頂ければ幸いです。

COVID-19は医療教育の現場にも大きな影響を与えました。さらには今年度から医師法の改正に伴い、医学生共用試験は公的化され、その合格が医師国家試験受験の要件に加わりました。この5年ほどの医療教育を取り巻く環境の変化は、当学会の活動にも少なからぬ影響を及ぼすものと考えます。例えば医療者教育へのDX導入は必須のものとなりましょう。シミュレーション教育の現場には、学修者評価の視点がより一層求められます。先に述べました学会基盤の整備を速やかに行い、多くの懸案事項、新しい課題に取り組んでいかなければなりません。どうぞより一層のご支援を賜りたく存じます。

さて令和6年11月2日（土）には愛媛大学において熊木天児大会長、内藤知佐子実行委員長のもとで第12回学術大会が開催されます。是非多くの皆様にご参集頂きたく存じます。学会執行部としましても大いに盛り立てて参りたいと考えます。お願いばかりになりましたが、このニュースレターを読まれた方で年会費未納の方、ぜひ、年会費をお支払いください。年会費は1年分4,000円です。年会費を振り込むと学会誌最新号がお手元に届きます。また、学会の会員メールが届きます。

（振込先：変わりました）

三菱UFJ銀行 駒込支店（店番号061） 普通預金口座
口座名義 日本シミュレーション医療教育学会
口座番号 0629866

また、非学会員におかれましてはこのニュースレターを含む学会HPに是非お目を通し頂き、ご入会をご検討いただきたく存じます。末筆となりましたが、本年は穏やかで、できれば溜め込んだエネルギーを発散できる飛躍の年になりますこと、そして何より皆様のご健勝を祈念いたします。

J-STAGE登録論文の閲覧状況

広報担当理事 自治医科大学 浅田義和

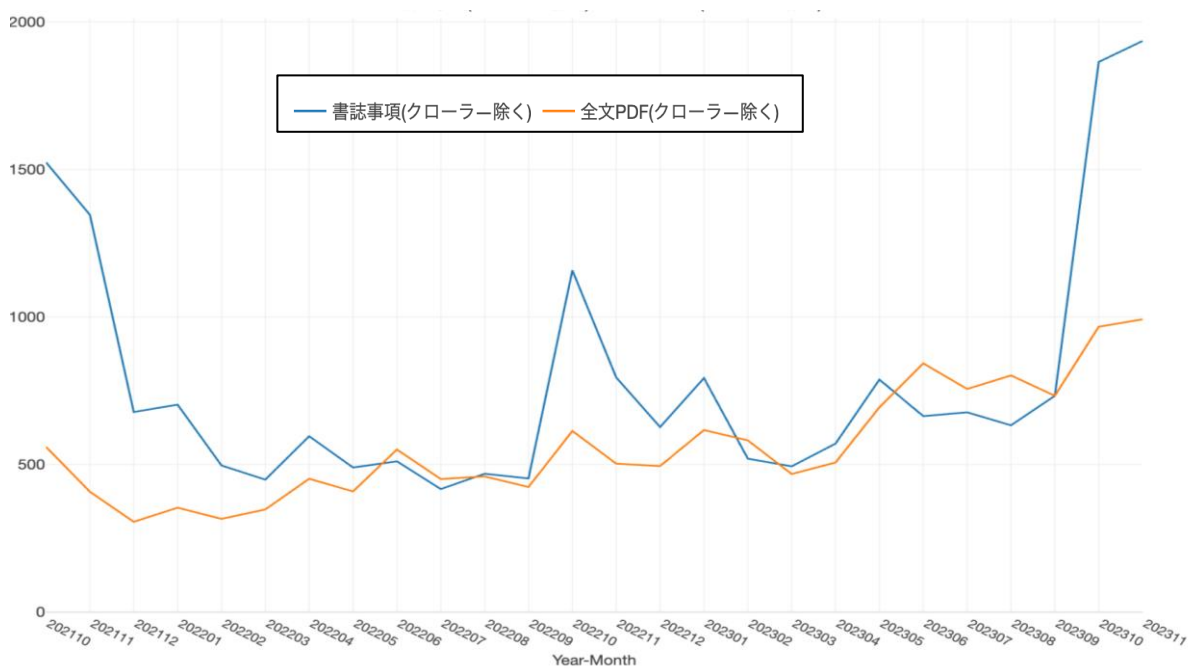
日本シミュレーション医療教育学会では、2021年10月22日より、学会誌「日本シミュレーション医療教育学会雑誌」をJ-STAGEにて公開しております (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jasehp/-char/ja>)。J-STAGEは国立研究開発法人 科学技術振興協会 (JST) による電子ジャーナルのプラットフォームであり、分野を問わず様々な学術論文や会議録が公開されています。基本的に発刊1年後以降としており、2023年12月末時点では第7巻 (2019年) から第10巻 (2022年) までが公開されています。※第6巻 (2018) は学会大会抄録のみ掲載済。

さて、このJ-STAGEでは、月間での論文アクセスランキングも公開されています。このランキングは、本学会誌の特徴を示す一つの指標にもなるかと考え、簡単ですがその情報の一部をご紹介します。なお、今回ご紹介するデータは、2021年10月22日 (J-STAGE利用開始日) から2023年11月末日までの総和としてのデータとなります。アクセスランキングはアクセスの総数で計算されるため、公開が早い論文の方が結果としてランキングも高くなりやすい、という点をご承知おきください。

図：学会誌全体のアクセス件数 (横軸：年月、縦軸：件数) 表：全文PDFへのアクセスランキング

図は学会誌全体のアクセス総数です。全文PDFの閲覧件数は概ね月間500件程度でしたが、2023年では7-800件程度まで上昇し、大会後は1000に届く数値でした。表はPDFアクセス数のトップ10です。半数以上が看護領域での事例に関する論文となっております。本学会は多職種に参加する会となっており、その様相を反映していると言えます。また、マネキンを利用したシミュレーションのみならず、ICTを活用した実践事例も注目されています。コロナ禍を経て、様々な形式のシミュレーション教育が実施されてきたことにも影響しているでしょう。

このランキング結果に限らず、様々な観点で書かれた論文が公開されております。ぜひ一度、ご確認いただけましたら幸いです。



タイトル	DOI	PDFアクセス数	筆頭著者
熟練看護師の看護技術を疑似体験するバーチャルリアリティ教材の開発	10.50950/jasehp.2020-08-04	1734	渋谷 寛美
病棟単位で実施した看護師に対するTask trainingとSituation-based trainingの2段階構成による救急蘇生シミュレーションの学習効果の検討	10.50950/jasehp.2020-08-08	791	釋迦野 陽子
看護系大学生の能動的な学習への準備性とシミュレーション教育への評価	10.50950/jasehp.2019-07-08	545	伊藤 朗子
看護師はBLSインストラクターの経験からどのような変容を遂げているか	10.50950/jasehp.2020-08-05	530	大塩 誠司
看護学生における血管可視化装置および血管エコーを用いた静脈血採血演習の評価	10.50950/jasehp.2020-08-10	520	原 明子
人工知能(AI)をいかにしてシミュレーション医療者教育に活かすか?	10.50950/jasehp.2021-09-14	518	藤倉 輝道
ヒト臍帯を用いた臍帯カテーテルの留置のためのタスクトレーナーの作製について	10.50950/jasehp.2019-07-01	497	伊東 藍
急変時対応シミュレーション教育におけるビデオを用いた体験の振り返りの有用性	10.50950/jasehp.2019-07-11	490	河合 裕子
医学部卒前医療シミュレーション教育における仮想患者シミュレーションソフトウェアの試用	10.50950/jasehp.2020-08-06	410	金子 一郎
札幌市立大学における精神看護学シミュレーション教育の成果検証と今後の方向性	10.50950/jasehp.2020-08-01	372	守村 洋

第11回日本シミュレーション医療教育学会学術大会 「シミュレーション教育 繋がる！」を終えて

大会長 東京慈恵会医科大学 万代康弘

2023年10月21日土曜日、東京慈恵会医科大学で開催致しました第11回日本シミュレーション医療教育学会学術大会につきまして報告いたします。本学術大会はポストコロナの第1歩を意識し、人と人の繋がりを実感して頂くように開催形態を対面形式としました。参加登録数は188名で、運営スタッフを含め200名を超える方々にお集まりを頂き、活発な交流とディスカッションが行われました。

学術大会のテーマとして「シミュレーション医療教育 繋がる！」を掲げました。未曾有の災害であるコロナ禍において、対面での学習・教育が中断や制限を受け、私たちは学習・教育の面からも、人と人の繋がりの大切さを実感してきました。またコロナ禍をきっかけに遠隔シミュレーション学習が発達することで技能・態度教育においても遠隔地での指導が可能となり、更に人と人、地域と地域、国と国を繋ぐ強力な学習ツールとして認識されてきております。また、シミュレーション教育は医療現場に繋がる学習ツールであり、シミュレーション教育プログラムは医療現場を意識した目標設定を踏まえた計画・デザインが重要であることをコロナ禍は再確認できる良い機会でありました。

開会式では来賓挨拶として文部科学大臣 盛山正仁氏にお言葉を頂き、今後のシミュレーション教育の重要性についてお話を頂きました。また鈴木利哉 前理事長代行と藤倉輝道 現理事長にご挨拶を頂きました。

シンポジウム1では「International Session」としてハワイ大学のDr. Benjamin Berg氏を迎え、エビデンスに基づいたシミュレーション教育をテーマに45分の口演と約40分の討論を行いました。シンポジウム2では「繋がる・広がる！～アジア太平洋地域におけるシミュレーション教育実践から考える将来展望～」として、マレーシアからDr. Narendiran Krishnasamy氏とシンガポールからDr. Ashokka Balakrishnan氏をプレゼンターとしてお迎えしてシンポジウムを行いました。

パネルディスカッション1では「現場実践改善に繋ぐシミュレーション医療教育～蘇生科学教育の変遷から学ぶ～」に関して討論頂き、パネルディスカッション2では「シミュレーションサポートスタッフの重要性」、パネルディスカッション3では「シミュレーション教育と現場を繋ぐデザイン」をテーマとして会場を繋ぎながら活発な討論が行われました。

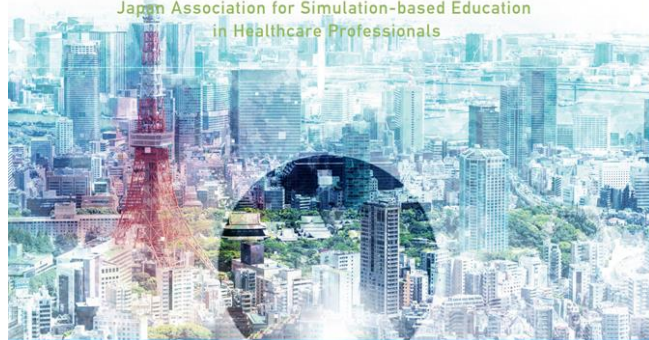
一般演題では一般口演で17演題、ポスター形式発表で11演題の発表と活発な議論が行われました。閉会式では大会長では来年開催について、愛媛大学 熊木天児先生より、2024年11月2日土曜日に愛媛大学附属病院にて第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会、テーマを「ザ・シミュレーション医療教育～past, present, future and beyond～」で開催されることをアナウンス頂きました。

最後に、学会会員を含め多くの方々に支えられて学会を準備・開催することができました。皆様には心から感謝申し上げます。



第11回 日本シミュレーション医療教育学会 学術大会

Japan Association for Simulation-based Education
in Healthcare Professionals



テーマ
シミュレーション医療教育 繋がる！

日時: 2023年10月21日(土)

現地開催

場所: 東京慈恵会医科大学 1号館・2号館

〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25-8

大会長: 万代 康弘 (東京慈恵会医科大学)

<https://www.jasehp11.com/>



主催事務局: 東京慈恵会医科大学 救急医学講座

〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 TEL:03-3433-1111(代表) Mail:jasehp2023@gmail.com

新理事紹介



この度、日本シミュレーション医療教育学会の新理事に就任いたしました秋山仁志と申します。
現在、日本歯科大学生命歯学部教授（附属病院総合診療科）、一般社団法人日本歯科医学教育学会理事長、日本歯科医学会常任理事を拝命しております。

歯科医学の立場から、日本シミュレーション医療教育学会のさらなる充実と益々の発展のために、全力で取り組んでまいります。

何卒、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

日本歯科大学 秋山仁志

このたび、理事を拝命しました愛媛大学医学部附属病院の内藤知佐子と申します。

私をはじめアメリカのシミュレーション医療教育を視察したのは、2004年のことでした。あれから、早20年。皮肉にも、新型コロナウイルス感染症を経て急速にシミュレーション医療教育が浸透したことを感じております。看護分野においては、2022年度から新カリキュラムが始まり、一層シミュレーション医療教育に力を注ぐようになりました。医学分野においても、2023年度から共用試験が公的化となり、診療参加型臨床実習の促進が図られるなか、これまで以上にシミュレーション医療教育が注目されるようになりました。

シミュレーション医療教育においては、ファシリテータの育成が欠かせないと考えております。ファシリテータの育成を通して、より質の高い医療人の育成と安心安全な医療の提供を実現することが、私の使命だと捉えております。

微力ながら、これまでの経験をふまえ本学会のために貢献できればと思う所存です。皆さま、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

愛媛大学 内藤知佐子

新編集委員長就任のご挨拶と抱負

岐阜大学医学教育開発研究センター
今福輪太郎

この度、日本シミュレーション医療教育学会 編集委員会 委員長を拝命いたしました岐阜大学の今福輪太郎と申します。当学会は、2013年に旧日本M&S医学教育研究会と旧医療教育スキルスラボ研究会が発展的な合併により新たな学会として発足した時より、学会雑誌を毎年発刊してまいりました。私は、第1巻の発刊より編集委員として携わらせていただき、これまでどのようにして投稿者、査読者、編集委員の皆様が協働してシミュレーション医療教育を学術的に高めようとしてきたかを肌で感じながら学ばせていただきました。

本誌は、「シミュレーション医療教育の発展を国際的レベルで推進し、これを普及させ、医療の向上を図り、もって国民の健康保持と増進に寄与すること」を目的としております。国際レベルに押し上げるためには、会員の皆様が発見交換や知の共有を自由にできるようなプラットフォームが必要となります。今後は、シミュレーション医療教育の裾野を広げるために、より多くの方が本誌に教育実践を投稿したいと思えるような学術誌にしたいと思っております。それと同時に、理論と実践とを融合させた示唆を含む学術性の高い内容も充実させたいです。特に、リサーチクエスチョンが明確で、科学的研究手法によって新たな知見を提供する研究論文が増えるように、教育研究の計画立案・実施や論文執筆への支援の仕組み作りも考えていけたらと思っています。

本誌の掲載論文は、発刊1年後にJ-Stageにてオンライン公開されております。今後は、オンライン掲載の利点をよりいっそう活かし、会員の皆様が発論文投稿及び掲載論文の利活用がしやすいシステム構築を目指したいと考えております。（URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jasehp/pubinfo/-char/ja>）

現在、2024年発刊予定の第12巻の編集作業を進めております。学会雑誌は、会員の皆様からのご投稿によって成り立っており、皆様のご協力なしに発行することはできません。より多くの会員の皆様のお声に耳を傾けながら、有意義な誌面づくりに励んでいきたいと考えております。ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

編集委員会
からの
お知らせ



JASEHP
日本シミュレーション医療教育学会



<https://jasehp.jp>

発行日：2024年1月15日

発行者：日本シミュレーション医療教育学会理事長
藤倉輝道

編集者：日本シミュレーション医療教育学会広報担当理事
浅田義和・駒澤伸泰

第12回

日本シミュレーション 医療教育学会学術大会

ザ・シミュレーション医療教育 ～past, present, future and beyond～

会期

2024年11月2日(土)

会場

愛媛大学医学部附属病院

総合臨床研修センター長

大会長

熊木 天児

主催事務局

愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター

住所: 〒 791-0295 愛媛県東温市志津川454

TEL: 089-960-5098